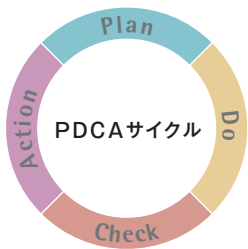


CSR Report 2009

関西電力グループ CSRレポート



2008年度総括



CSR行動原則	Plan 2008年度 基本方針	Do 2008年度の主な取組み	Check 主な評価	Action 2009年度以降の方針
商品・サービスの安全かつ安定的なお届け	■安全・確実な業務運営、事故・災害の防止に向けた多様な訓練の実施、技術・技能の継承に努めます。 ■電源構成・設備形成の最適化や電力系統の確実な運用に引き続き取り組みます。 ■グループ一体となり、お客さま満足の向上に努めます。	最適な電源構成の実現／安定した燃料調達／電力系統の確実な運用と設備形成／商品やサービスの安全・安定供給を支える人材の育成／災害に備えた強固な防災対策の確立／原子力発電の安全運転／美浜発電所3号機事故再発防止対策における継続的な改善活動／商品やサービス価値の向上にむけたお客さまの声の収集・分析／お客さまニーズに対応したソリューション提案の実施 新たな実施項目 ●石炭専用船の契約締結 ●原子燃料調達に関するプロジェクトへの参画 ●安全文化醸成活動の推進 ●OSARTによる美浜発電所の調査実施	自己分析 すべての業務において品質の向上に努め、グループ一体となってお客さまのお役に立つ、より高品質な商品・サービスを創造・提供し、お客さま満足を高める取組みを進めました。 アンケートから メーカ・協力会社の方々とコミュニケーションを深めながら安全最優先で定期検査工程の策定に取り組んでまいりました。このような取組みを継続することで、当社取組みへの肯定的評価が増加してきています。 専門家から 燃料調達、地球環境保護などについて、経営トップを先頭に、全社を挙げて果敢に挑戦している関西電力に対し大きな期待を感じます。	■ゆるぎない安全文化を構築するため、潜在リスク低減に向けた活動、社内外コミュニケーションの充実、安全・品質管理に向けたしくみの整備に努めてまいります。 ■エネルギーの安定供給に向け、最適な電源構成をめざし、電力系統の確実な運用と、最適な設備形成を引き続き進めてまいります。 ■お客さまにご満足いただけるよう、グループ一体となって、より高品質なサービスを創造してまいります。
環境問題への先進的な取組み	■CO ₂ 排出削減目標 [※] の達成、長期的視点での低炭素社会実現に向けた取組みを推進します。 ■循環型社会の実現に向け、産業廃棄物のゼロエミッション達成にも全力で取り組みます。 ■地域環境保全、環境意識啓発、環境管理なども推進します。 ※使用電力量あたりのCO₂排出量を2008～2012年度の5ヵ年平均で0.282kg-CO₂/kWh程度にまで低減する。	関西電力グループ環境行動方針の制定／エコ・アクション／低炭素社会の実現に向けた貢献（「ニュー-ERA戦略」の展開＝社会全体のエネルギー利用の効率化、電力供給における温室効果ガス排出量の削減、海外での取組み、先進的な技術開発）／循環型社会の実現に向けた活動の展開（産業廃棄物の3R活動の推進、ゼロエミッションの推進、オフィスでの省エネ・省資源活動の展開）／地域環境保全対策の推進／生物多様性の保全／環境意識啓発の推進／環境管理の推進／第三者審査などによる信頼性の確保 新たな実施項目 ●電気自動車などの積極的な導入 ●自社事業所における省エネ・省CO ₂ の推進 ●国内クレジット制度への取組み ●河川維持流量を利用した水力発電計画 ●微量PCB混入機器循環洗浄処理技術の開発 ●女性層・若年層を対象とする意識啓発活動	自己分析 低炭素社会の実現に向けた貢献、循環型社会の実現に向けた活動、地域環境保全対策、およびこれらを支える環境管理、環境意識啓発などに積極的に取り組んだ結果、いずれの分野も着実に進めることができました。 アンケートから 総合的な地球温暖化対策への取組み、太陽光や風力などCO ₂ を排出しない新エネルギーの普及開発の取組みを中心に、当社の環境活動に関する情報を「知っている」とお答えいただいた方の割合が上昇しています。 専門家から 低炭素社会や循環型社会実現に向けた取組み等基本方針に掲げた活動をいずれも着実に実施し、特に系統電力の低炭素化、電化推進の取組みの進捗が注目される。持続可能社会の創造に向けさらなる活動を期待する。	■「関西電力グループ環境行動方針」に基づいて積極的に環境への取組みを推進し、持続可能な社会の構築に貢献します。 ■2008～2012年度のCO ₂ 排出削減目標 [※] の達成、長期的視点に立った系統電力の低炭素化と電化社会の推進によって、豊かな暮らしと安心で住みやすい快適なまちづくりをサポートしながら、低炭素社会の実現をめざします。 ■また、ゼロエミッションの推進、生物多様性の保全、環境情報開示、環境コミュニケーションに努めます。
地域社会の発展に向けた積極的な貢献	■地域社会への貢献と地域活性化のための取組みを地域のみならずと連携して推進します。 ■従業員が地域コミュニティの一員であるという自覚を持てるよう、活動内容や支援制度などの社内情報発信に努めます。	それぞれの地域事情・特性に応じた各種地域活動の積極的な実施・協力／従業員を対象としたボランティア情報や地域イベント情報の発信／地域活性化に向けた企業誘致やまちづくりのための活動の展開 新たな実施項目 ●「かんでんコラボ・アート21」巡回展示会を大阪南部で追加実施（近畿2府4県および福井県の全8会場で巡回展示）	自己分析 従業員のボランティアへの意欲、関心は高い水準を示しています。今後も社内媒体を活用しながら、ボランティア活動や当社の社会貢献活動に関する情報を、従業員に発信していきます。 アンケートから 当社の企業イメージに関するアンケート結果から、多くのお客さまに社会に貢献している企業であるとのイメージを持っていただいています。 専門家から 景気が悪化するなかでも、継続して社会貢献活動に取り組む姿勢が見られた。次年度はさらに厳しい経営環境が予想されるが、社会貢献活動を継続する意義を再確認し、一層の充実に努めてほしい。	■地域事情・特性に応じた地域社会への貢献、活性化のための取組みを、地域のみならずとともに進めてまいります。 ■従業員一人ひとりの社会貢献意欲を高められるよう、引き続き情報発信をおこなってまいります。
人権の尊重と良好な職場環境の構築	■次世代育成支援の観点から、本人の意欲に応じて、今まで以上に女性の就業支援に積極的に取り組みます。 ■人権の尊重、ハラスメントの防止という「人が人として大切にされること」という「あたりまえ」なことを、責任を持って実践します。	全従業員に対する同和・人権研修の実施／人権標語の募集／役員研修の実施／グループ会社との情報交換／次世代育成支援に係る取組み／高齢者雇用／障がい者雇用／労働時間の適切な管理／従業員の成長を支援する取組み／安全衛生委員会の開催／災害の再発防止策の展開／車両安全運転管理の徹底／グループ一体となった安全活動の展開／メンタルヘルス支援の充実 新たな実施項目 ●「人権標語」優秀作品への社内報賞 ●『ストップ！パワー・ハラスメント!』の発刊 ●女性に対する就業支援施策の拡充 ●障がい者雇用の推進 ●従業員の成長を支援する仕組みの見直し ●新型インフルエンザへの対応	自己分析 今年度も全従業員数を大きく上回る延べ27,000人以上の従業員が人権研修を受講するなどの継続的な啓発活動の実施や、活き活きとした職場づくりに向けた安全衛生活動を展開できました。 アンケートから 企業として人権啓発に取り組むことへの肯定的な意見が昨年より増加していることから、従業員の意識に、企業の取組みとして重要であるとの理解と認識が着実に浸透してきています。 専門家から 良好な職場環境を構築するためには、グループ会社も含め、職場の一人ひとりのハラスメント防止意識を定着させる取組みが大切である。	■従業員一人ひとりが、成長を実感しながら、やる気・やりがいにより一層高められるよう、人材育成のしくみ強化に取り組んでまいります。 ■グループ会社も含めた多くの方にハラスメント防止意識を持っていただくために、引き続き、人権研修の実施や情報共有、連携強化に取り組んでまいります。
透明性の高い開かれた事業活動	■当社事業への理解促進、そして社会のみなさまに選んでいただける企業グループをめざし、質の高い「フェイスブックフェイスのコミュニケーション活動」を展開します。 ■日々の業務を通じて、お客さまからいただいた貴重なご意見を事業活動に反映します。	原子力関連施設見学会や、電気の生産地と消費地の交流会による原子力に対する理解活動の促進／次世代層へのエネルギー教育「出前教室」の実施／各事業所におけるコミュニケーション活動／PR施設における地域社会との交流／インターネットやコミュニケーション誌による情報発信／報道機関への迅速な情報発信の実施／社内報や社内ポータルサイトによる社内コミュニケーション／株主・投資家のみなさまへの公平・迅速な情報開示／事業活動に伴うリスクの管理／内部監査機能の充実 新たな実施項目 ●「キッズニア甲子園」にパビリオンを出展 ●PR施設「エルガイアおい」をオープン	自己分析 当社の事業活動について適時的確な情報発信をおこなうだけでなく、原子力関連施設見学会や次世代層向けの出前教室など、より質の高い「フェイスブックフェイスのコミュニケーション活動」を積極的に展開しました。 アンケートから 多くのステークホルダーから当社のコミュニケーション活動についてご理解・共感をいただいています。 専門家から 事業活動全般の透明性をさらに高めていくために、ステークホルダーの立場にたって、よりきめ細かいコミュニケーション活動を推進されていくことを期待する。	■原子力や低炭素社会への対応など当社事業への理解促進、そして社会のみなさまに選んでいただける企業グループをめざし、ホームページやPR誌、報道機関を通じた発表による情報発信を積極的におこなうとともに、次世代層教育や地域のオピニオンリーダーとの交流を通じた「フェイスブックフェイスのコミュニケーション活動」を継続していきます。 ■「フェイスブックフェイスのコミュニケーション活動」や日々の業務を通じて、お客さまよりいただいた貴重なご意見を、事業活動に反映してまいります。
コンプライアンスの徹底	■業務に密着した対話・研修活動、職場ディスカッション活動を通じ、各人が主体的に実践することを推進していきます。 ■情報流出のリスクを全従業員へ周知し、情報流出を防止するために遵守すべき事項を継続的に徹底していきます。	コンプライアンス推進体制の整備／各職場でのディスカッション活動／第一線職場との対話・研修活動／啓発ツールの充実と法的情報・教訓メッセージの発信／「独占禁止法研修会」の実施／社会的関心の高い法的諸問題の説明会／情報セキュリティマネジメントの推進／個人情報保護の充実（委託先管理の徹底ほか） 新たな実施項目 ●コンプライアンスマニュアルの改訂とケースブック（Q&A）の作成 ●新コンプライアンス事例集（VOL.3）の発行 ●偽装請負問題の説明会と各部門自己点検の実施 ●法令手続管理の充実 ●グループ会社への出前コンプライアンス研修の積極的展開 ●コンプライアンス相談対応についての講演会 ●社外持ち出しファイルには原則としてすべてパスワードを付与するシステム機能の向上	自己分析 各職場での自律的な「草の根コンプライアンス活動」は、確実に定着し、その有用性も認識されています。職場の創意工夫の余地を拡げるとともに、実務に有用なツール類の充実化を図り、サポートしていきます。 アンケートから 「この1年で、自身のコンプライアンス意識が向上した」と答えた従業員の半数近くが、その理由として「職場の自律的なコンプライアンス活動に関わって」と回答しました。 専門家から 揺るぎない企業体質を維持するためには、取組みがマンネリ化しないよう常に新しい題材を提供し、自分の頭で考え続ける仕組みを維持することと、今後生じうる新しいリスクに備えることが必要である。	■業務に即応した啓発ツールの充実化を図り法的情報を発信し、リスク認識共有に向けた職場ディスカッション、第一線職場への対話・研修を継続し、グループ会社への支援をおこなうとともに、職場の自律性をさらに高めるよう推進いたします。 ■情報セキュリティに関する当事者意識のさらなる浸透を図るため、社内外の事故事例や情報流出が社会に多大な影響を与えることなどを全従業員へ周知し、意識啓発の継続的な取組みを徹底いたします。

編集方針

●本レポートは関西電力グループの経済、社会および環境に関する取組みを、お客さまをはじめ、関西電力グループを支えていただくすべてのステークホルダーのみなさまに対して、わかりやすくご報告するものです。

●GRI「持続可能性報告ガイドライン第3版」および環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしています。各対照表に関しては、当社ホームページにて掲載しております。

<http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/index.html>

●環境情報については記載内容の客観的な信頼性を確保するため、第三者機関による審査を受審しています。審査を受けた結果として、サステナビリティ情報審査協会(<http://www.j-sus.org/>)の定める「環境報告審査・登録マーク付与基準」を満たしているとして、下記のマークの付与が認められました。



【報告範囲】

対象期間:2008年4月1日～2009年3月31日
(上記期間以外の重要な情報についても一部報告しています。)
対象範囲:関西電力株式会社および関西電力グループ会社
対象分野:経済面・社会面・環境面

【レポート発行時期】

2009年8月発行

2008年版:2008年8月発行
2010年版:2010年夏頃発行予定

●用語解説がある言葉は各ページの一番下に表示しています。

用語解説

- ステークホルダー：企業活動をおこなう上で関わるすべての人。お客さま、地域社会、取引先、株主・投資家、従業員などが含まれる。

●掲載項目に関連するホームページがある場合には、URLをマークとともに記載しています。

Web 「関西電力グループ経営ビジョン」
<http://www.kepco.co.jp/corporate/vision/index.html>

関西電力グループのCSRに関する取組み・環境に関する詳細情報
<http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/index.html>

財務に関する詳細情報
<http://www.kepco.co.jp/ir/index.html>

CONTENTS

2008年度総括

編集方針・報告範囲／目次	1
CSR行動原則	2
関西電力グループの概要とステークホルダーへの誓い	3
トップコミットメント	5
関西電力グループの経営とCSR方針	7
CSR推進体制とその取組み	9
特集 激動2008年—	11
そのとき当社グループは、そして従業員は	

1 商品・サービスの安全かつ安定的なお届け

ライフライン事業者としての使命と責任	17
安全を最優先した原子力発電所の取組み	20
グループ一体となったサービスのお届け	23
取組みへの評価と2009年度以降の方針	26

2 環境問題への先進的な取組み

Topics 1	系統電力の特性を活かした 低炭素社会実現への貢献 — 需給両面の取組みによる、CO ₂ を出さないエネルギーの利用拡大 —	27
Topics 2	「関西電力グループ環境行動方針」を制定	29
	エコ・アクション(目標・実績)	31
	事業活動と環境負荷の現状(2008年度実績)	33
	低炭素社会の実現に向けた貢献【ニューERA戦略】	34
	循環型社会の実現に向けた活動の展開	40
	安心され、信頼される環境先進企業をめざした取組みの展開	42
	環境会計	47
	グループ会社の取組み	48
	第三者審査	49
	取組みへの評価と2009年度以降の方針	50

3 地域社会の発展に向けた積極的な貢献

地域社会の一員としての取組み	51
地域の活性化に向けた取組み	53
取組みへの評価と2009年度以降の方針	54

4 人権の尊重と良好な職場環境の構築

人権の尊重	55
ダイバーシティの推進と働きやすい職場づくり	56
安全衛生に関する取組み	58
取組みへの評価と2009年度以降の方針	60

5 透明性の高い開かれた事業活動

ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーション	61
コーポレート・ガバナンス	64
取組みへの評価と2009年度以降の方針	65

6 コンプライアンスの徹底

各職場における啓発活動と自律的な取組みの推進	66
情報セキュリティと個人情報保護の推進	68
取組みへの評価と2009年度以降の方針	69

第三者意見	70
「関西電力グループCSRレポート2008」アンケート結果	71

私たち関西電力グループは、
6つのCSR行動原則に従って事業活動に取り組み、
お客さまや社会のお役に立ち続けます。

CSR行動原則

1 商品・サービスの安全かつ安定的なお届け

関西電力グループは、社会に不可欠なライフラインを担う事業者として、お客さまのくらしの基盤を支えていることを認識し、商品・サービスの安全かつ安定的なお届けに、日々、万全を期します。

2 環境問題への先進的な取組み

関西電力グループは、環境との関わりが深いエネルギー事業者として、事業活動が地球環境に与える影響の大きさを認識し、自らの事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、世界最高水準を目指します。さらに、よりよき環境の創造を目指した先進的な取組みを行い、持続可能な社会の構築に積極的に貢献します。

3 地域社会の発展に向けた積極的な貢献

関西電力グループは、地域や生活に密着した事業者として、地域社会の発展なくしては、自らの発展はありえないという認識のもと、地域経済や地域コミュニティの活性化に向けた取組みを通じて、地域社会の発展へ積極的に貢献します。

4 人権の尊重と良好な職場環境の構築

関西電力グループは、「人権の尊重」を国際的な合意に基づく重要な責務であると認識し、グループの事業活動に関わるすべての人々にとって、差別のない、安全で働きやすい職場の確保に努めます。

5 透明性の高い開かれた事業活動

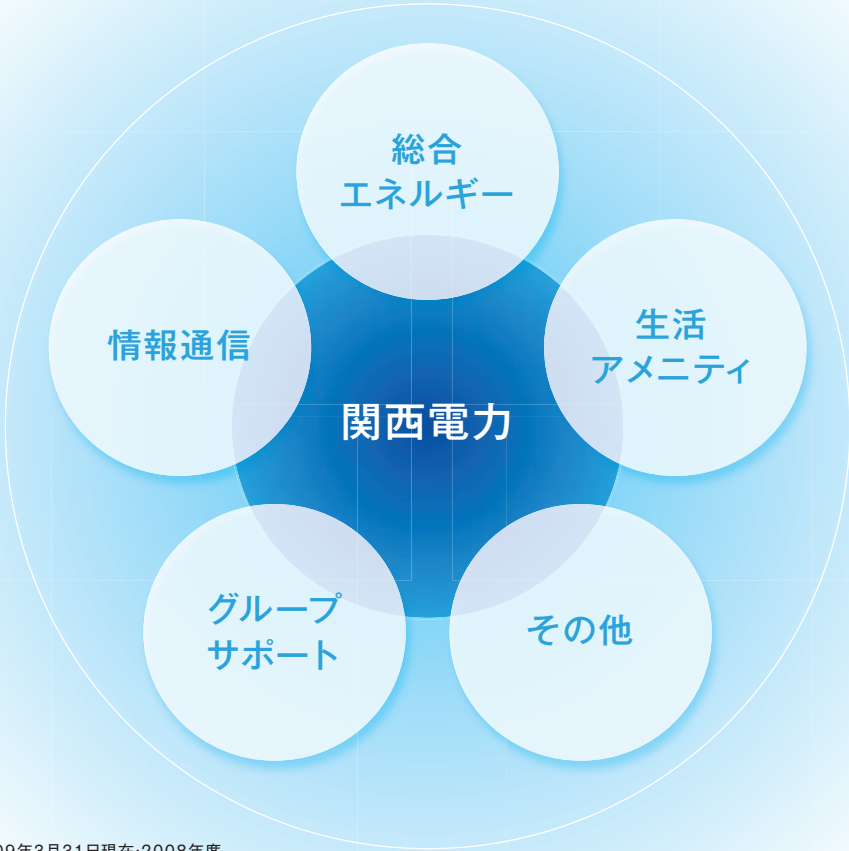
関西電力グループは、事業活動に社会の声を的確に反映させるとともに、事業運営における公正さを確保し、社会に対する説明責任を誠実に果たしていくため、社会のみなさまとのコミュニケーションを一層推進し、透明性の高い開かれた事業活動を行います。

6 コンプライアンスの徹底

「企業倫理の確立」と「法令等社内外の規則の順守」は、企業が社会に存在する上で要求される責務であり、関西電力グループは、これらをすべての活動の基盤として、確実に実践します。また、これらの実践を保証するためのしくみを構築し、その維持改善を図ります。

関西電力グループの概要とステークホルダーへの誓い

関西電力グループは、エネルギーをコアに、暮らしや社会の
基盤となる事業において「お客さま満足No.1企業」をめざしています。
また、さまざまな事業を通して、ステークホルダーのみなさまのご要望やご期待にお応えし、
当社グループへの信頼とご理解をいただくとともに、
社会の持続的発展へ貢献していきたいと考えています。

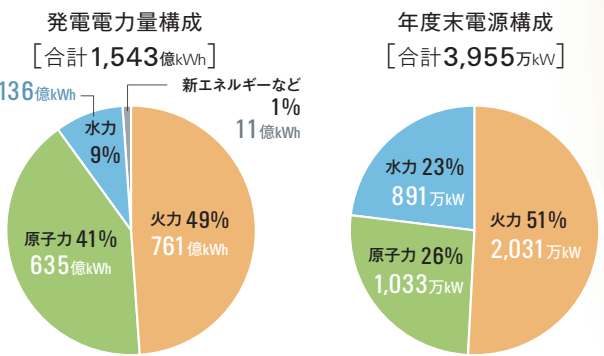


会社概要 2009年3月31日現在・2008年度

会社名	関西電力株式会社
所在地【本店】	530-8270 大阪市北区中之島3丁目6番16号
設立年月日	1951年5月1日
資本金	4,893億円
発行済株式数	9億5,470万株
主な事業	電気事業
グループ会社数	連結子会社数 57社 持分法適用会社数 2社
従業員数	30,490人(連結) 22,106人(単独)
販売電力量	1,459億kWh
売上高	27,895億円(連結) 25,653億円(単独)
総資産額	69,701億円(連結) 62,434億円(単独)

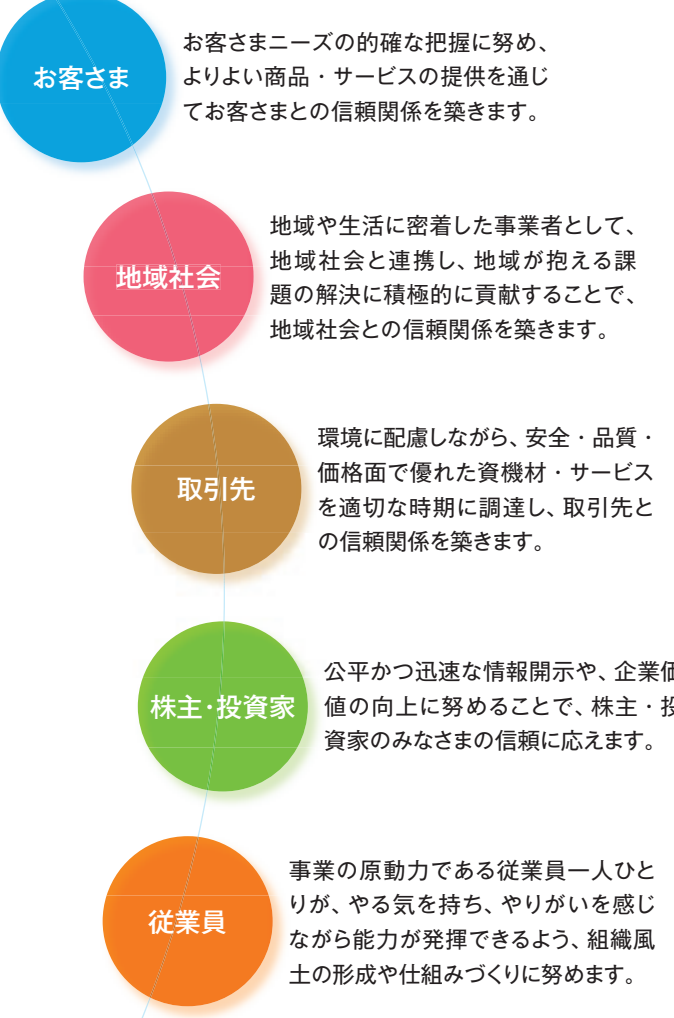
設備状況 (2009年3月31日現在)

供給区域
大阪府、京都府、兵庫県（一部を除く）、
奈良県、滋賀県、和歌山県、ならびに
三重県・岐阜県・福井県の各一部



※ 発電電力量、年度末電源には、他社受電分を含む（融通・揚水用電力量は含まない）。
※ 四捨五入の関係で合計と一致しない場合があります。

用語解説
●ステークホルダー:企業活動をおこなう上で関わるすべての人。お客さま、地域社会、取引先、株主・投資家、従業員などが含まれる。



グループ会社（連結子会社および持分法適用会社） 2009年3月末現在

総合エネルギー

(株)関電エネルギーソリューション
堺LNG(株)
関電エネルギー開発(株)
大阪バイオエナジー(株)
越前エネライン(株) 他2社

情報通信

(株)ケイ・オブティコム
(株)ケイ・キャット
関電システムソリューションズ(株) 他4社

生活アメニティ

関電不動産(株)
(株)クリアバス
(株)関電セキュリティ・オブ・ソサイエティ
かんでんEハウス(株)
(株)関西メディカルネット
(株)かんでんジョイライフ
(株)関電アメニックス 他3社

グループサポート

(株)かんでんエンジニアリング
(株)日本ネットワークサポート
関電プラント(株)
黒部峡谷鉄道(株)
(株)ニュージェック
(株)原子力安全システム研究所
(株)原子力エンジニアリング
(株)環境総合テクノス
関電サービス(株)
(株)かんでんCSフォーラム
(株)関電オフィスワーク
(株)関電パワーテック
(株)関電L&A
関電ビジネスサポート(株)
(株)エネゲート
(株)きんでん 他8社

その他

関電ジオレ(株)
(株)関電インターナショナル
関電ベンチャーマネジメント(株)
(株)かんでんエルハート
関電オーストラリア社
LNGエビス・ SHIPPING 社
関西電子ビーム(株) 他4社

「お客さま満足No.1企業」の実現に向けた 従業員一人ひとりの活動で お客さまや社会のお役に立ち続けます

私たちの使命

～お客さまや社会のお役に立ち続ける～

私たち関西電力グループは、創業以来、電気をはじめとする商品やサービスを安全・安定的にお届けすることなどを通じて、お客さまの暮らしや経済活動をしっかりと支え、社会の持続的な発展に貢献することを最大の使命として、事業を営んでまいりました。

近年、原油価格の乱高下や、世界的な金融危機、低炭素社会実現に向けた動きの加速など、当社グループを取り巻く環境は、かつて経験したことがないほど、大きく速く変化しています。

こうしたなか、電気や通信など社会の大切なライフラインを支える責任ある事業者として、私たちが果たすべき役割は、ますます大きくなると考えており、今後、一層、グループの総合力を発揮し、変化にも適切に対応しながら、その責務を確実に果たし、お客さまや社会のお役に立ち続けていきたいと存じております。

関西電力グループのCSR

～信頼を賜るために～

こうした関西電力グループの事業活動の基盤となるのは、お客さまをはじめ地域社会や、株主・投資家、ビジネスパートナーなど、ステークホルダーのみなさまから賜る信頼であることを肝に銘じ、これからも企業としての社会的責任（CSR）をしっかりと全うしてまいります。

とりわけ安全については、2004年の美浜発電所3号機事故を深く反省し、グループを挙げて安全文化の再構築に取り組んでまいりましたが、そうしたなか、昨年9月、

美浜線21号鉄塔事故により、2名の尊いお命が失われたことは痛恨の極みです。

私たちは、これを重く受け止め、目下、グループを挙げて隠れたリスクの洗い出しなど、さまざまな取組みを推進しているところですが、こうした取組みを地道に積み重ねることでゆるぎない安全文化の構築をめざしてまいります。

そして、コンプライアンスの徹底はもとより、地球温暖化防止やエネルギーセキュリティなど、公益的課題にも積極的に対応し、広く社会のみなさまからの信頼を賜ることができるよう努力を続けてまいります。

CSRの推進に向けて

～お客さま満足 NO.1企業に向けて～

私たちは、CSR推進の原動力である一人ひとりの意識改革や組織風土の改革にも積極的に取り組んでいます。

私自身、第一線職場に赴き、CSRの考え方やその大切さ、そしてそれが各人の行動となって実践されていくことが何より重要であることなどを、直接訴えるのはもとより、いろいろな機会を通じて、社内外とのコミュニケーションに努めています。

各職場ではCSRキーパーソンが中心となり、職場の



全員が自主的に行動していけるようにするため、さまざまに工夫を凝らしながら活動を展開しています。

今後とも、社会やお客さまをはじめとしたステークホルダーのご期待に的確に応えていくために、当社グループの一人ひとりが、何をなすべきかを自ら考え、前向きに実行していけるよう、やる気やりがいを持って活き活きと働くことができる環境の整備や人材の育成にも力を入れ、「お客さま満足No.1企業」の実現に向かって力強く前進を続けていきたいと考えています。

CSRレポートを通して伝えたいこと

～これからもみなさまとともに歩み続けたい～

私たちは、このレポートを通じて、みなさまとのコミュニケーションをさらに深めていきたいと考えています。巻頭には、昨今の急激な変化への私たちの対応を、さまざまな役割を担ってきた「人」にスポットを当てて特集しています。さらに、本編では、CSR実践のために整理した、6つの行動原則に沿って、私たち関西電力グループの取組みを、できる限り具体的に紹介しています。

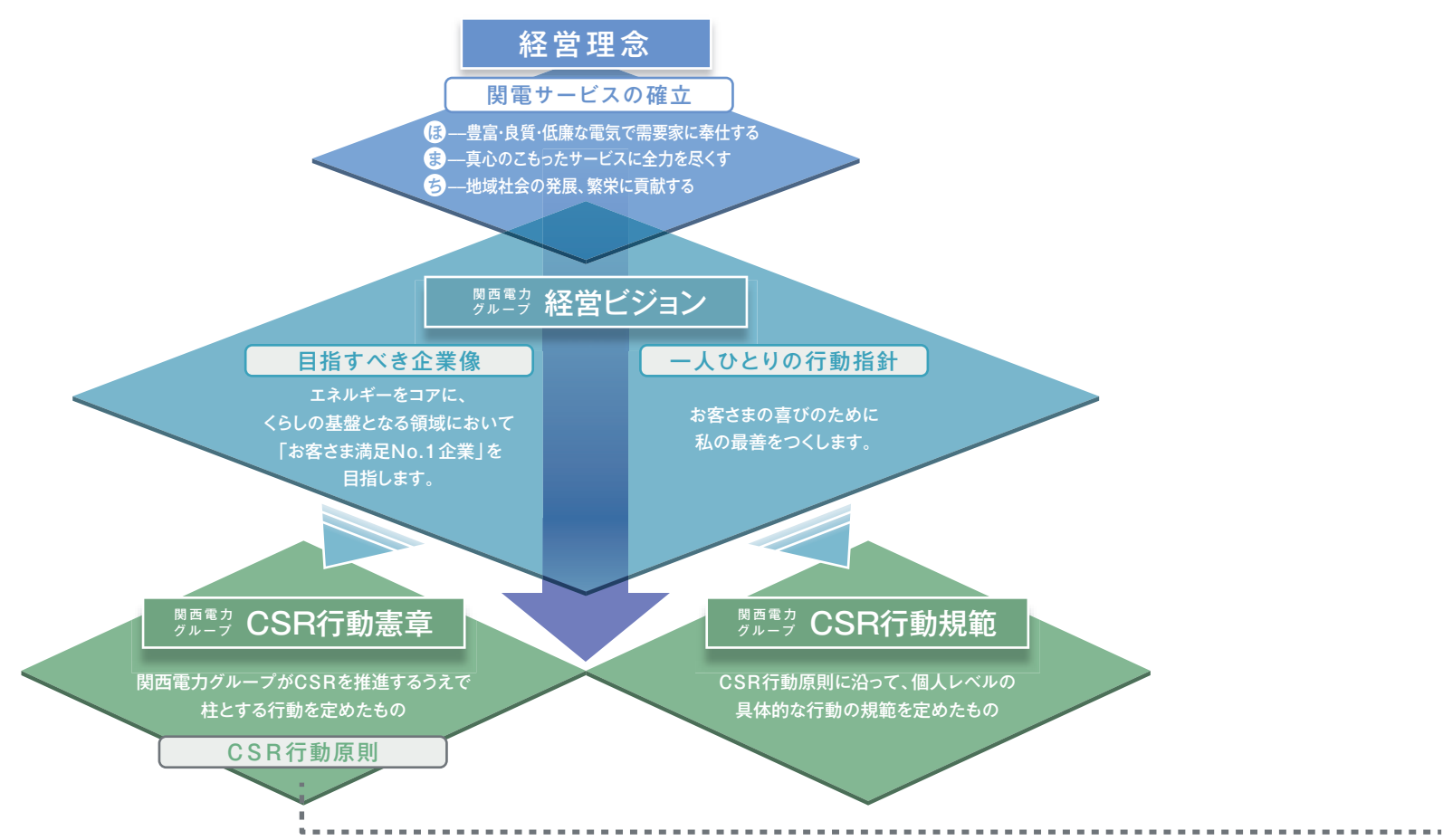
是非ご一読いただき、今後の課題や期待など、忌憚のないご意見を賜りますれば幸いに存じます。

関西電力株式会社
取締役社長

森 詳 介

関西電力グループの経営とCSR方針

関西電力グループは、「お客さまのお役に立つこと」という創業以来の使命をもとに経営ビジョンを定め、これを基盤として6つのCSR行動原則からなるCSR行動憲章を策定し、従業員一人ひとりのCSR活動を推進しています。



経営理念と従業員のための指針

創業間もない1951年、初代社長 太田垣士郎は「前垂れがけの精神」を唱えました。前垂れがけに象徴される大阪商法の精神を継承し、真の民間企業として「お客さまへの奉仕を第一に考える」ことを提唱したのです。この精神は、1964年に経営理念として策定された「関電サービスの確立」で、「ほ」「ま」「ち」（下図参照）の3項目に凝縮されました。また、太田垣社長が「良き社風の涵養を」と全従業員に説いた「良識・勤勉・友愛」は、社訓としていまも受け継がれています。

関電サービスの確立 を制定（1964年社達）

- ほ — 豊富・良質・低廉な電気で需要家に奉仕する
- ま — 真心のこもったサービスに全力を尽くす
- ち — 地域社会の発展、繁栄に貢献する

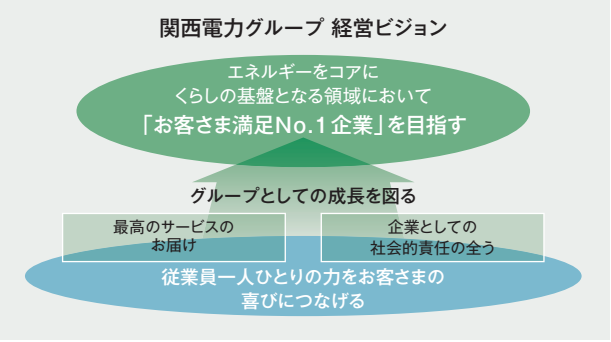
社 訓

われわれは公益事業に従事するものとして、

- 良識 責任感と公正な常識を身につけ
- 勤勉 自分の業務に対し、積極的に取り組むとともに最善を尽くし
- 友愛 心豊かな社会人となるために、日々自らを磨くことに努めよう。

私たちがめざす姿、経営ビジョン

2004年3月、当社グループは「関西電力グループ 経営ビジョン」を策定し、「お客さま本位」という創業時からの精神と当社グループがめざす姿を改めて共有しました。当社グループがめざす「お客さま満足 No.1 企業」を実現するには、「最高のサービスのお届け」と「企業としての社会的責任の全う」が不可欠と考えます。これらを従業員一人ひとりが実践することで、期待される利益を確保し、グループとしての成長を図ってまいります。



Web 関西電力グループ経営ビジョン
<http://www.kepco.co.jp/corporate/vision/index.html>

関西電力グループCSR行動憲章

関西電力グループの事業活動は、お客さま、地域社会のみならず、取引先のみならず、株主・投資家のみならず、従業員、そのほか社会の多くの方々に支えられています。こうしたみなさまから頂戴する信頼こそが、関西電力グループが企業としての使命を果たし、持続的に成長を遂げていくための基盤です。

関西電力グループにとって、CSRとは、コンプライアンスや透明性の確保などにより、社会の一員としての責務を確実に果たすことに加えて、グループの事業活動に対して社会のみならずから寄せられる期待に誠実にお応えすることにより、社会の持続的発展に貢献していくことと考えています。

このような認識のもと、私たちは、6つの行動原則からなる「関西電力グループCSR行動憲章」を策定しました（2004年3月）。

CSR 行動原則

1. 商品・サービスの安全かつ安定的なお届け
2. 環境問題への先進的な取り組み
3. 地域社会の発展に向けた積極的な貢献
4. 人権の尊重と良好な職場環境の構築
5. 透明性の高い開かれた事業活動
6. コンプライアンスの徹底

※各原則の本文は2ページをご覧ください。

Web 関西電力グループCSR行動憲章
<http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/charter.html>

関西電力グループCSR行動規範

当社グループは、従業員一人ひとりが社会の一員として自らの責任を確実に果たし、社会からの期待に応えられるよう、「関西電力グループ CSR 行動規範」において個人レベルでの具体的な規範を明示しました（2005年5月）。従業員はこのCSR行動規範に沿ってそれぞれの業務を遂行しています。

コンダクトカードの携帯 ——行動規範を胸に——

関西電力グループの経営ビジョンやCSR行動規範を記載した携帯用カードを全従業員に配布しています。裏面に自らの行動目標を明記し、日々の業務における行動や目標の確認に活用しています。



CSR行動規範を記載した携帯用カード

Web 関西電力グループCSR行動規範
<http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/standards.html>

CSR調達方針

調達活動の基本理念

当社の購買部門は、設備の最適な形成・維持・運用のために、環境に配慮しつつ、安全・品質・価格面で優れた資機材・サービスを適切な時期に調達しています。このような調達活動は大切なパートナーである取引先のみならずによって支えられており、相互に信頼関係の醸成に努め、これまで以上に強固なパートナーシップを構築しながら、調達活動を通じたCSRを推進していきたいと考えています。

そのため、当社は以下の5項目からなる「調達活動の行動基準」を制定し、その基準に基づき調達活動を実践するとともに、契約交渉時あるいは現場実態調査に伴う工場見学などの機会をとらえて、取引先に対しCSR調達方針の説明、浸透に努める活動に取り組んでいます。

調達活動の行動基準

1. 安全の最優先、品質・技術力の維持・向上
安全を最優先に考え、設備の最適な形成や維持、運用のための、品質・技術力の維持・向上に資する取り組みや対策を講じていきます。
2. 環境への配慮
環境負荷が少ない資機材およびオフィス用品の調達（グリーン調達）を推進し、取引先のみならずと協働して循環型社会の構築に貢献します。
3. 強固なパートナーシップの確立
取引先とサプライチェーンに対して協働して改善に取り組むことで、取引先のみならずとの強い信頼関係を構築し、お互いに成長・発展をめざします。
4. 透明性の高い開かれた取引
安全・品質・価格面で優れた資機材やサービスを適切な時期に調達するため、国の内外を問わず、広く門戸を開いています。また、取引先の選定にあたっては、安全性、品質・技術力、環境への配慮、価格、納工期の確実性、保守・管理の実施状況などに基つき、経済的合理性を追求し社会的合理性にも配慮しながら公平・公正におこないます。
5. コンプライアンスの徹底
全ての関係法令およびそれらの精神を遵守し、特に、安全に関する関係法令の遵守、人権尊重（児童労働・強制労働の禁止など）、個人・秘密情報の厳正な管理に充分配慮します。

Web 「関西電力の調達活動」
<http://www.kepco.co.jp/kepa/purchas/index1j.html>

用語解説

● **コンプライアンス**: 一般的には、法令・企業倫理・社内ルールなどを遵守することといわれているが、企業として道義的責任を果たすことも含め、社会の要請に適切に対応していくことがその本来の趣旨である。

用語解説

● **グリーン調達**: 企業などが製品の原材料・部品や事業活動に必要な資材やサービスなどを、部品メーカーなどのサプライヤーから調達するとき、環境への負担が少ないものから優先的に選択すること。

● **サプライチェーン**: 製造・調達・物流・建設・保守といった、原材料の供給者から最終需要者に至る業務の流れを一貫したプロセスとして捉え直したものの。

CSR推進体制とその取組み

当社グループは、一人ひとりがCSR についての理解を深め、常にCSR を意識しながら業務を遂行することこそが、CSR の推進に重要であると考え、当社「CSR 推進会議」を機軸としたさまざまな取組みを展開しています。

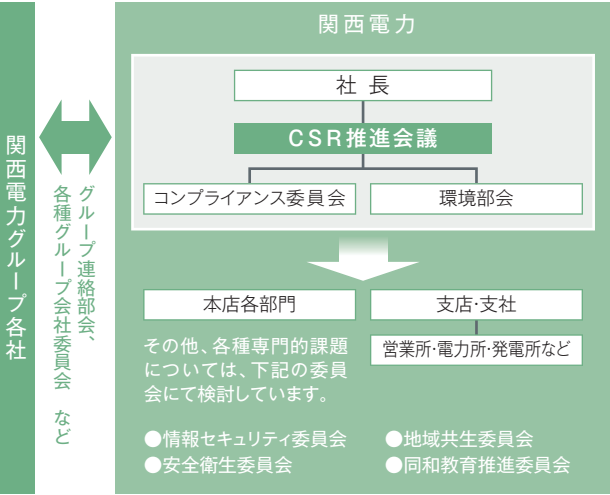
CSR 推進会議を中心としたCSR 推進体制

当社は、社長を議長とするCSR推進会議を設置し、当社グループ全体のCSR推進に関する総合的な方針や活動を策定するほか、具体的な活動を総合調整し、その実施を促しています。こうした体制のもと、各部門や各事業所はCSR推進会議で策定された方針に基づき、それぞれの活動を展開しています。

一方、グループ各社はCSR総括責任者やCSR総括窓口を設けて自律的な活動を推進するとともに、グループ連絡部会などを通じて、当社との情報や意見の交換を積極的に進めるなど緊密な連携を続けています。

当社は今後もこのような体制を活かし、グループ全体でCSRを推進するとともに、グループ各社の意見を反映させながら、総合的な方針や促進活動の検討を図っていきます。

■ CSR推進体制



CSR 推進の具体的な取組み

経営層と第一線職場のコミュニケーション

当社は、社長をはじめ経営層が積極的に第一線職場へ外向き、CSR に対する考え方を「フェイス トゥ フェイス」で直接伝え、理解の促進に取り組んでいます。その際には、意見の交換などによって、各職場の課題や問題の早期把握に努め、経営に反映させています。



社長の第一線職場対話活動

CSR キーパーソンの選任と研修を通じた啓発活動

それぞれの職場ではCSR推進のためのCSRキーパーソン^{*}を選任し、彼らへの研修を通じて全従業員への啓発活動を展開しています。研修では、社長の訓示のほか、社外の専門家によるコンプライアンスやCSRについての講演、小グループでの事例研修などを実施し、問題発見力や課題解決力の向上を図っています。

また、CSRキーパーソンは研修の内容を各職場に持ち帰り、従業員一人ひとりへの啓発活動に活用しています。

このほか階層別研修にもCSRに関する内容を取り入れるなど、さまざまな方法でCSRの定着に取り組んでいます。

^{*}職場の部長・課長クラス約120名をキーパーソンとして選任。



キーパーソン研修のようす

Voice

よりよい組織や風土をつくる鍵は社員一人ひとりの心のなかにある

神戸電力所は、CSR推進体制を充実させるため、安全や環境、情報セキュリティ、CSの各分野において、さまざまな活動の推進役として各担当リーダーを職場に配置し、所員の自立的な取組みを促しています。

例えば、各リーダーの「少しでもよい職場にしたい」という思いから「神戸電力所CS向上のための心構え10箇条」を策定し、全員参加による浸透活動を実践しています。

お互いが支え合う組織や、よりよい風土への扉を開く鍵は、社員一人ひとりの心のなかにあります。私はCSRキーパーソンとしてリーダーや所員とともにその鍵を見つけ、よりよい職場への扉を開きたいと考えています。

神戸電力所 所長室長
CSRキーパーソン
前田 臣吾

神戸電力所CS向上のための心構え10箇条

1条「挨拶を徹底する」

2条「服装・身だしなみに気をつける」

3条「朝礼に参加し体操をしっかり行う」

4条「注意しあえる環境づくりを心がけよう」

5条「職場全体で助けあう」

⋮

10箇条を記載した携帯用カード

従業員に対するCSR 推進活動

従業員に向けては、「CSRの定着」と「風土改善」といった取組みを重点的に実施しています。

「CSRの定着」については、従業員一人ひとりの仕事そのものが当社CSRの実践であり、その積み重ねこそがCSR推進に結びつくという考えのもと、さまざまな活動を展開しています。とくに2008年度は、研修を通じて、各従業員は自分の業務やステークホルダーを明確にし、業務や自分に何が期待されているかを考え、また、他の従業員と意見交換をおこなうことで、CSRへの理解を深めるという活動を実施しました。

「風土改善」については、CSRを実践するうえで土台となるのが各従業員の意識や組織の風土であるという考えから、社会が求める期待に前向きに応えられるよう意識を高めるため、各職場でディスカッションなどをおこなっています。2008年度は「CSR意識が自然に行動に現れるためには何が必要か?」をテーマに討論するなかで、CSRへの気づきの機会を創出し、価値観を共有しました。

こうした従業員に対するCSR活動については、毎年11月に、すべての従業員を対象としたアンケート「全従業員アンケート」を実施し、評価と分析をおこなっています。その結果は各部門や各職場へフィードバックし、取組みの改善などに活用しています。



各職場におけるディスカッションのようす(左：人材活性化室 右：小浜営業所)



各事業所での取組み

●Kita CSR 百人一首 (大阪北支店)

大阪北支店では、CSR意識の共有と浸透を図るため、職場で伝承していかなければならない教訓などを百人一首としてまとめようと考え、支店内の従業員に、標語や川柳などを広く

募集しました。その結果、約1,700首の応募があり、そのなかからとくに含蓄があるもの、示唆に富むものを100首選定し、冊子にまとめて各職場に配布しました。また、その後も毎週2首ずつをメールマガジンで支店内全従業員に配信。こうした一連の活動によって、従業員たちのCSR意識の共有と向上を促しています。



Kita CSR 百人一首

作 品 例
すれ違う 廊下で育む コミュニケーション 挨拶ひとつで 変わる職場 (大阪北給電制御所：杉本 明信)
バックオーライ! 上司でも先輩でも助手願う (北摂ネットワーク技術センター：関本 茂)
24時間 背負ってますか? 大きな看板 (野江電力システムセンター：岩崎 元)

●風土改善に向けた取組み (奈良営業所・高田営業所)

奈良営業所および高田営業所は、さまざまな風土改善に向けた取組みをおこなっています。

その一つとして、各担当者が主体的に「よりよい営業所風土になるにはどうすればいいか」を議論し、風土改善をめざした取組みを実施しています。具体的活動として、各部門の担当者のなかから選ばれた改善活動リーダーが牽引役となり、同リーダーによるリーダーミーティングと各職場での職場ミーティングをベースとして、課題の発掘と課題解消に向けた検討・対応をおこなうなど、風土改善をめざした主体的取組みを展開しています。これにより、営業所全体のコミュニケーションが深まり、本音で語り合い、協力・カバーし合う雰囲気醸成されています。

今年度は、さらに多くの営業所員が参画する活動の展開をめざし、営業所一丸となって取り組んでいます。

改善活動リーダーの委嘱式を開き、所長が直接、期待を託す。(高田営業所)



営業所員の“お客さまのお役に立ちたいという思い”や“自己成長の意欲”が少しずつ強くなってきていると実感しています。

改善活動リーダーとして、今後も継続的に多くの営業所員を巻き込んで風土改善に取り組み、根の部分をもさらに強くすることで、「お客さま満足No.1企業」実現に向けてがんばっていきます。

奈良営業所
奈良ネットワーク技術センター

佐々木 良

